

# ふるさと歴史アラカルト

## 『錦川志』に見るいきものばかり

『錦川志』は文久2(1862)年、岩国藩士の山田青門によって書かれたもので、錦川沿岸の寺社や名所、名産などについてまとめられています。この資料には動物も多く取り上げられており、今回はそのうちの幾つかを紹介いたします。

鮎魚(山椒魚)の項では「御庄の西にある深い谷の淵にサンショウウオが出て、地域の人が捕まえて持って帰っている」と記されています。現在、錦川には国の特別天然記念物であるオオサンショウウオもいますが、この頃に見掛けられていたサンショウウオの大きさや種類などは不明です。

鷺鷥(鶺鴒)の項では「他の藩では数十を飼っており、それを使って魚を捕まえている。この辺りの漁師はいまだにこの漁法を身に付けておらず、鶺鴒とつての幸せであり、魚にとつての幸せと言える」と記されています。江戸時代初期には岩国でも鶺鴒飼をしていた記録がありますが、一般的な漁法としては定着していなかったようです。な

お、この鶺鴒は川鶺鴒のことを指すと思われませんが、現在、錦川も含め全国の鶺鴒飼で使用されている鶺鴒は海鶺鴒です。

鯉の項では「鯉を捕るのは禁止されている。理由は分からないが、昔は錦川に鯉がいなかったため、育て始めた時に禁止されたことによるとも伝えられている。最近では繁殖して池や沼で見ることができ、漁師がしばしば違反して捕まえているが、必ずしも罰せられていない」と記されています。鯉は古くから貴重な魚とされており、岩国においても領主やその家族の食用であったため、漁も禁じられていました。しかし江戸時代後期には規制が緩くなっていったようです。

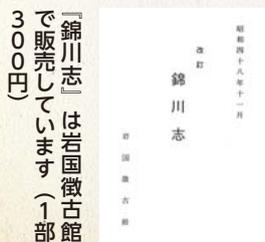
『錦川志』にはこの他にも、現在も見ることのできるホタルやアユ、シロウオなどが記されている他、時に私たちが悩ませるイノシシやサル、現在では見ることのできないツルやカワウソなども記されています。錦川流域の生態系を150年前と現在とで比較してみても面白いかもしれません。

### いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館  
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

9月1日(日)まで、企画展「いきものばかりー岩国徴古館資料に描かれた動物たちー」を開催しています。

※岩国藩の成立は慶応4(明治元、1868)年ですが、理解しやすい表現として岩国藩と表記しています



### 岩国市 人口・世帯

人口 134,081人【前月比 -156人】 男性 63,637人 女性 70,444人

世帯 65,680世帯【前月比 -74世帯】 ※外国人人口を含む(2019年7月1日現在)

### 交通事故発生件数

6月分事故件数 10件(122件) 死者数 0人(3人) 傷者数 13人(138人)

※高速道路発生分を除く。( )内は2019年累計

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。  
お問い合わせは、広報戦略課☎(29)5016 FAX(21)3337